

2020年4月18日

積水ハウスへの公開書簡

羊たちの沈黙¹

我々株主提案の取締役候補 11 名は、まず、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって引き起こされたこの危機の時期、現職取締役の皆様を含む、積水ハウスの全てのステークホルダーの方々が無事に、大過なくお過ごしであることを願っております。

政府により緊急事態宣言が発出され、大阪府知事からイベント開催の自粛が要請されている状況から、我々は積水ハウスに対し、来る 4 月 23 日に開催される予定の第 69 回定時株主総会の日時・場所を再検討することを推奨しております。現在予定されるままの日時・場所で開催された場合に、株主の方々が議決権を行使されるに当たり健康・安全を害されるリスクを踏まえたものです。現時点では阿部俊則会長を含む積水ハウスの現経営陣が、この我々の推奨に応じていない状態であることを残念に思います。

¹ 羊たちの沈黙 (映画) - Wikipedia

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%8A%E3%81%9F%E3%81%A1%E3%81%AE%E6%B2%88%E9%BB%99_\(%E6%98%A0%E7%94%BB\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%8A%E3%81%9F%E3%81%A1%E3%81%AE%E6%B2%88%E9%BB%99_(%E6%98%A0%E7%94%BB))

株主総会がいつどこで開催されるかにかかわらず、我々がなぜ取締役としての一括選任を求めるかにつきご説明させていただきたいと考え、本公開書簡をお送りいたします。今回の取締役選任は、世界的な議決権行使助言会社であるグラスルイスと ISS や多くの説得力あるメディア報道がそれぞれ独立して唱えるところの、積水ハウスで不可欠のコーポレート・ガバナンス改革について問われるものです。

グラスルイスと ISS は共に、この 2 年間のガバナンス不全に責任があるとして、阿部俊則会長と稲垣士郎副会長の再任に反対推奨を行いました。両社はそのガバナンス不全の解決策として、株主提案と会社提案双方の取締役候補が入り混じった形を取締役会の可能性に触れました。しかし、我々はそれは妥当ではないと考えております。

ガバナンス不全の過去の事例が、現職取締役の全面入れ替えが必要であることを示しています。

2012 年のオリンパス社の不祥事は、コーポレート・ガバナンスに関する不祥事としておそらくこれまでで最大のものでしょう。同社の会長とそれに加担する取締役会により、10 億英ポンドに上る会計不正の隠ぺいが行われました。

就任したばかりのマイケル・ウッドフォード CEO は同社の初の外国人経営者でした。FACTA 誌の報道により、菊川剛会長および森久志副社長（いずれも当時）により隠ぺいされている可能性のある取引の存在に気付きました。ウッドフォード CEO が菊川会長と森副社長にその点を問い質したものの埒が明かかなかったため、その点を明らかにすべく取締役会を招集しました。しかし、菊川会長は、代わりにウッドフォード CEO の解任動議を出し、ウッドフォード CEO は 15-0 の全会一致で解職されました。ウッドフォード CEO は、会長が賛成者に挙手を促した時のことを回顧し、「全取締役が挙手し、それ以上に手が上げられないほどに高く手を上げていた」としています。²

ウッドフォード氏は、日本の礼儀正しさや社会的な機微への配慮といったものは、日本の世界の大国からの凋落やオリンパス社の不祥事の要因となったとしています。彼は「権威者に対して疑問を呈することができないというこうした社会的特徴が日本の災いとなっている。それがオリンパス社の前経営陣が 10 億ポンドにも上る不正を隠ぺいできたことにつながった」としています。

積水ハウスの土地取得に関する詐欺事件と現経営陣によるその後の隠ぺいは、オリンパス社のケースに酷似しています。オリンパス社のケースから学べることは、現取締役会が権威者に対して盲目的にその指示に従わなければならない状態にあることから、取締役会の総入れ替えが必要であるということです。

² <https://www.theguardian.com/business/2012/nov/23/michael-woodford-olympus-whistleblower>

株主提案の取締役候補は 11 人の優れた、また独立性の高い取締役で構成され、多数のマネー・ローンダリングやテロリスト/組織犯罪への資金供与の可能性を示唆する土地取引を徹底的に調査し、可能な限りの資金の回収を試みることをお約束しています。

また、我々取締役候補は、事業の成長につながるモデルとなるべきコーポレート・ガバナンスを積水ハウスに速やかに実現することもお約束しています。組織内のあらゆる管理職・社員の理解と関与を得つつ、社員の士気を回復することに努めます。

来る 4 月 23 日に、積水ハウスの株主は新しい取締役を選任します。どのような結果となるにせよ、選任された取締役は、日本のコーポレート・ガバナンスのために、受託者としての義務を最大限に果たし、恐れのないライオンのように振る舞わなければなりません。そうして、積水ハウスを救う（**Save Sekisui House**）ために権威者への盲従を共同して終わらせなければなりません。

以上

クリストファー・ダグラス・ブレイディ

パメラ・フェネル・ジェイコブズ

岡田 康司

佐伯 照道

岩崎 二郎

齊藤 誠

加藤 ひとみ

勝呂 文康

藤原 元彦

山田 浩司

和田 勇